研修便り

高知市教育研究所教職員研修班
平成30年９月21日発行　No.120

「研修便り」は，高知市立学校教職員研修の成果・内容の共有，研究所から発信する情報の周知を目的として，発行していきます。

特別支援教育講座

平成30年７月26日（木）実施

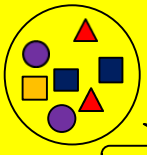
対象：高知市立学校の参加希望教職員・必須選択研修として受講希望した２・３・４年経験者及び中堅教員研修対象者

概要　特別な支援を必要とする子ども一人一人の教育的ニーズを把握し，適切な対応ができる能力を養う。

「インクルーシブ教育システムの実現のために必要な実践的知識・技術」

講師：高知大学　是永かな子　教授

インクルーシブ教育とは，子どもたち一人一人が多様であることを前提に，障害の有無に関わらず，通常の学級において合理的配慮が提供されて学べることを目指す教育のこと。実質的平等な教育。



インクルージョン（共生教育）
＝　みんな一緒だね

教室にはいろいろな子どもたちがいる

どんな状況の子どもでも授業を保障できるか。
↓
ユニバーサルデザインに基づく授業

いろいろな在り方や，認め方がある。

通常の学級における特別支援教育
先生が異質な他者の存在を認め，多様性を尊重することができるように，日々教えていく。
自尊感情の高い指導者が自尊感情の高い子どもを育てる。

⇒　ほめることが大切。
その子に響くようにほめていく。
（特性に合わせたほめ方）

先生は人間関係のプロでなければならない！

こうしたらうまくいく！！
- してみせる
  （短い言葉でゆっくり教える）
- うまくいったところをほめる
  （具体的に）
- どうしても嫌がったらやめる
  （別の日にやりかたを変えてチャレンジする）

「できる」「わかる」学級づくりのために

1　授業観の転換
- 先生が教える授業から子どもが学ぶ時間へ
- 子どもと一緒に作る授業
  （発問，子ども同士をつなげる）
- 聞かせる工夫，視覚支援

2　主体的な学びのための問いかけ
段階的なヒントの提示
- 正解が一つではない問いかけ
- 自由に発想できる問いかけ
- 探せばわかる問いかけ

3　対話的な学びのための仕掛け
隣の子どもに聞いてよい授業，子どもの自然なつながりを切らない授業，子ども同士がつながれる雰囲気が大事。関わり合う場面を具体的に設定する。
- 物でつながる（高機能自閉症）
- 活動でつながる（自信がないLD）
- 役割でつながる（高機能自閉症）

子どもと子どもをつなげるための「通訳」になる。

関わり方のモデルとしての教員！

4　学力向上と特別支援教育
- 授業のめあてとまとめを明示する。
- 学びで子どもの世界を広げる。
- 段階的支援を行う。
  〔1ステージ（全ての子ども）のみならず，2ステージ（1ステージのみでは伸びが乏しい子ども）の支援を〕
- 絶対評価を用いる。
- 個別の課題を念頭に置く。

受講者の感想
- 子どもの多様性というものにもっと目を向けなければならないなと感じました。子どももそれぞれに様々な特性があり，同じ指導では通用しないということがすごく分かりました。
- 子どもたちの特性に応じた正しいほめ方で上手にほめてあげたいと思いました。

第３回　情報教育研修会

平成30年７月27日（金）実施

概要　情報通信機器等の知識や技術及び活用方法についての研修を行い，教職員の校務における情報通信機器の利用を促進するとともに，情報教育に関する教員の指導力の向上を図る。

講義・演習　「未来を創る子どもたちに必要な情報教育とは」

講師：高知県産業振興アドバイザー　川村　晶子　氏

工業化社会では教育でも同質性を求められたが，今後は異質性を生かし，知恵を出し合って新しいものを生み出し，課題を解決する力が重要になる。

未来は予測不能で不安もあるが，多くのチャンスも生まれる。

改善から**改革**へ：必要な『**脳力**』は知能から『**知性**』へ

知能　PDCA

plan → do→check→act

（計画）　（実行）　（評価）（改善）

誰かが決めたことに合わせて**改善**していく⇒人工知能にできること

知性　OODA

observe → orient → decide → act

（観察）　（理解，方向付け）　（決定）　（改革）

答えのない問いに対して考え続ける力（改善ではなく改革視点が必要）

⇒人間だからできること。

「１を２，３，４…へ」→「０から１をつくる…へ」

これまでに経験がない超高齢社会でも，地域社会を持続していけるように！

プログラミング的思考とは，単に言語を学ぶことではなく，アナログであいまいな世界で問題を見つけ課題を抽出⇒解決のための事実を収集⇒論理的に推察⇒確信⇒行動する，ための“考える力”。

《受講者ワークショップ》開放特許（※）を使って，地域課題を解決しよう！

知財教育（知的財産の取り扱いに関するルールの教育や創造性の育成，知的財産を世の中で役立てる方法等《三菱UFJリサーチ＆コンサルティングHPから》）も踏まえ，「地域が抱える課題」に対して，「開放特許」を用いて，受講者同士で発想力を高め，解決策に結び付けて地域を元気にしていくアイディアを考え交流する活動を行いました。

「発想力」×「プレゼン力」×「思考力」を高めるプロセス

「アイディアスケッチ」完成!!

1

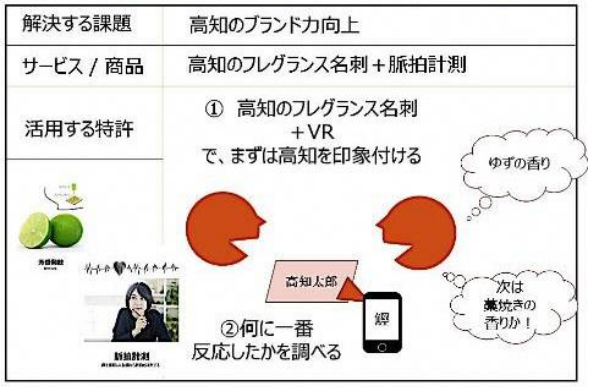
「開放特許」「新聞記事」をじっくりと見て，課題を意識しアイディアを練る。

2

ブレインストーミング（集団で考えを出し合い，発想を広げる）で発想力をアップする。

3

タブレット端末を用いて，発表用資料を作成し，共有する。



（※）開放特許：特許の権利者が第三者に開放する意思のある特許のことで，権利者とライセンス契約を結ぶことで，その特許の技術を自社の商品開発などに用いることができる。（経済産業省近畿経済産業局HPから）

「高知のブランド力向上」のために考案しました。

【受講者の感想】

- IT化やグローバル化の遅れ，生産性の低さ，少子高齢化等の問題があり，問題を解決しながら新しいものを生み出す力が求められる。
- 全ての生徒がプログラマーになるわけではなく，何をつかませるべきなのか，悩んでいた。今日伝えていただいたことで大きなヒントをつかむことができたように感じている。
- 一つの課題について考え続けて方向性を見いだしていったり，他者とのコミュニケーションの中で発見していったりする体験が欠かせないと感じた。

ご意見・ご感想を高知市教育研究所　教職員研修班までお寄せください。